

文教厚生委員会会議録（要点筆記）

日時：令和7年8月20日（水）

午前10時30分～

場所：委員会室

○委員長（國弘秀之）

ただいまから文教厚生委員会を始めます。協議題1「閉会中の調査事項について」を議題とします。（1）県外視察についてです。昨日、視察先の最後の場所が決まりましたので、改めて全体についてお伝えします。資料1をご覧ください。今回、3日間の日程で計4か所に伺うこととなりました。以前お伝えした「読み書き配慮」「国立成育医療研究センター」「つくば市」に加え、新たに「東京都発達障害者支援センター」に伺います。東京都発達障害者支援センターは、ディスレクシアに特化した施設ではありませんが、発達障害が疑われる児童に関わる関係者への課題整理や支援方法の提案、関係機関との連携を行っています。今回のテーマであるディスレクシアだけでなく、他の発達障害を併発しているケースも多いため、プラスアルファの知見として参考にさせていただけると考え追加しました。視察実施にあたり、9月19日までに先方へ質問状を送る必要があります。ホームページのアドレスを資料に載せておりますので、参考にされた上で質問したい内容があれば、8月26日までに事務局へメールでご連絡ください。正副委員長で素案を作成し、次回の委員会で決定します。この進め方でよろしいでしょうか。

【「はい」との声あり】

ではそのように進めます。（2）今後の委員会日程について。次回は9月8日（月）の議案審査終了後を予定しておりますが、よろしいでしょうか。

【「はい」との声あり】

次回の委員会は9月8日（月）に決定します。

協議題2「その他」についてです。（1）決算審査の日程について。資料2をご覧ください。9月16日は福祉部と子ども未来部の審査を行います。この日は子ども未来部の審査が終わっても教育部の審査を行いません。9月19日は、16日の審査が持ち越した場合は引き続き行い、その後、教育部の審査を行います。9月25日は総括質疑を行います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

説明した通り、進めさせていただきます。

（2）議会事業評価に移ります。担当課に事業の説明を求めます。

○生涯学習課長（青木美希）

音楽のあるまちづくり事業（セントラル愛知交響楽団との連携）」について説明します。本事業は、平成24年度からセントラル愛知交響楽団からの申し出を契機に、クラシック音楽を身近に楽しむ環境を整えてきました。平成27年度に協定を締結し、現在は第2期（令和3年度～7年度）の期間中です。

協定に基づき、①ホールでの演奏会、②小中学校でのアウトリーチ、③幼稚園・保育園でのアウトリーチを実施しています。また「提案事業」として、市からの要望に基づき、セントラル側の負担でロビーコンサートや2分の1成人式での演奏、各施設巡回などを無料で行っていただいています。

第1期は年間940万円でしたが、第2期は幼稚園等のアウトリーチを事業化したため994万円となりました。また、これ以外に「音楽マルシェ」や「ロビーコンサート」などの自主事業（約174万円）を加え、全体で約1,168万円の予算で事業を拡大しています。特に今年度からは、雁宿ホールに来るのが困難な方（亀崎地区など）のために、公民館などへ出向く「まちなか巡回公演」を開始しました。

入場者数はコロナ禍以降、伸び悩んでいます。そのため「文化芸術推進計画」に基づき、ターゲットを親子向けと一般向けに分ける二部制の導入や、SNS（インスタグラム）の活用、協賛企業・高校吹奏楽部等の招待、他部署（健康課・デジタル課等）の事業との連携によるチケット配布、ホワイエでのマーケット開催など、集客策を講じています。次期（第3期）協定に向けては、これまでの「鑑賞型（コンサート中心）」から、楽器体験を中心とした「体験型」へと力点を移したいと考えています。昨年度実施した「音楽マルシェ」には約3,500人が来場しており、市民が求めているのは「気軽に音楽に触れられる体験」であるとの感触を得ています。次期協定では、音楽に興味を持つ市民の裾野を広げるボトムアップ事業に注力したいと考えています。

○委員長（國弘秀之）

ただいまから質疑に入ります。ご質疑ありませんか。

○山田清一委員

全てのイベントのベースが「クラシック」のように思えます。20代から40代の層が見受けられないのは、彼らが好むロックやポップスなどの「俗世間的な音楽」が少ないからではないでしょうか。当局が考える「文化芸術」の範囲はどこまでを指しているのでしょうか。

○生涯学習課長（青木美希）

ジャンルを問わず全ての音楽が文化芸術であると捉えています。アンケートでもバンド演奏などの要望がありますので、今後は他団体の協力も得ながら、多様なジャン

ルを取り入れていきたいと考えています。

○山本裕介委員

「セントラルさんだけが音楽ではない」という点がポイントだと思います。Spotifyなどで無料で音楽が聴ける時代に、多様な音楽にシフトしたまちづくりを考えると、うことでよろしいですか。

○生涯学習課長（青木美希）

これまでは市内の楽器店との協力体制が十分ではありませんでしたが、今年の「音楽マルシェ」をきっかけに強い信頼関係を築けました。それらの要素も入れながら、多様なジャンルを取り入れていきます。

○加藤美幸委員

中学生の吹奏楽部への指導は非常に評価されていましたが、最近は部活動の地域移行や働き方改革の影響で活用されない学校も増えているとのこと。裾野を広げるだけでなく、今いる中学生たちのレベルアップのために、もっと無料で招待したり、技術を磨き上げる機会を作ったりすべきではないでしょうか。大会の成績向上などに繋がっているのでしょうか。

○生涯学習課長（青木美希）

学校ごとの活用状況に差があるため、今年度は巡回公演に変更しました。指導の成果については、個別の学校の状況を把握しながら、どのような形が最も効果的か検討を続けています。

○岩田玲子委員

市内の楽器店でも教えられるのであれば、そちらへの移行も考えられますが、ジュニアブラスバンドや市民管弦楽団への入団数が増えているといった指標はあるのでしょうか。

○生涯学習課長（青木美希）

指標はありません。具体的な入団数の把握に努めてまいります。

○委員長（國弘秀之）

他にご質疑はございませんか。

【「なし」との声あり。】

ないようですので、質疑を終了します。最後に、今後のスケジュールについて。資料3をご覧ください。

（事務局より説明：評価シートの送付、8月29日までの提出締切、分科会・本委員会でのまとめ等）

○委員長（國弘秀之）

ただいま説明のあったスケジュール案について、ご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

説明のあったスケジュールで進めさせていただきます。事務局よりメールで評価シートを送付しますので、8月29日までにご提出をお願いします。以上で本日の議題は全て終了いたします。これをもって文教厚生委員会を終了します。

午前11時39分 散会